

関西大学 学生会員 ○小濱 諒
関西大学 正会員 北詰恵一

1. はじめに

人々のつながりの醸成やコミュニティ・地域を活性化するためのまちづくりが多く地域で実施されている。まちづくりは、人々が日常生活を通して安全で安心して心地よく暮らしていくことができる地域社会づくりとそれを支える住みやすい生活環境や空間を維持・形成していく持続的な営みである。

しかし、まちづくりの取組事例やコミュニティ活性化事例などをみても、まちづくりの初期の取組はうまくいっていても一過性なもの、成功しているがそれが小規模なものなど、必ずしもうまくいってはいない。ある地域で成功したとしても、それを他の似通った地域で利用・活用する術がないのが現状である。まちづくりにおいて成功するための要因や原則ともいえるべきものを抽出することができれば、各地で効率的かつ実効性の高いまちづくりが可能となると考えられる。

2. 目的

まちづくりにより活性化したまちには、まちの人に活力があり、ビジネスが好調で、人が集まるという特徴をもっていると考えられる。そこで、まちづくりを人の集まりという点に着目することとする。まちづくりが行われている地域には少なからず人の集まりが形成されており、このことが成功要因とは必ずしも言えないが、分析するうえでわかりやすい指標となると考えた。本研究の目的は、既存のまちづくり取組事例からまちづくりに大きく影響する要素や性質、要因を分析し、まちづくりのプロセスモデルを構築するためのまちづくりの成功要素を分類しまとめることである。

3. まちづくり取組事例

ここでは、さまざまな取組事例の中で特徴的なものを特にとりあげる。

(1) 三重県伊勢市おはらい町⁽¹⁾の事例

伊勢神宮・内宮の鳥居の前の「おはらい町」は江戸時代、全国から多くの人々が「おかげ参り」に訪れていた。しかし第2次世界大戦後はその信仰も薄れ、おは

らい町に寄る参拝客は激減、衰退していった。昭和54年、「おはらい町」の衰退を危惧する地元老舗企業「赤福」が中心となる住民有志が委員会を設置し、魅力あるまちづくりへの模索を始める。その活動が実り、伊勢市が条例、基金、保全計画を策定した。県は再舗装といったハード整備を行うなど、全面的にまちづくりに協力した。そして、「おはらい町」は住民が望んだ伝統建築様式で統一された街並みへと変化していった。

ここでのまちづくりを進める中核となる要素は、伊勢神宮という全国的知名度を持つ歴史的資源の存在であろう。さらに、これを基盤とした老舗企業のつながりが、市民・行政協働でのソフト・ハード両面の整備を促し、まちに人の集まり・賑わいが生まれている。

このように歴史的資源を活用した事例や広島県竹原市の竹原町並保存会の活動⁽²⁾のように歴史的資源を再生・保全した事例、大分県由布市の温泉⁽³⁾や山口県と福岡県を隔てる関門海峡⁽²⁾などの地域資源を活かし、観光スポットにしている事例などは「場」の特徴を活かした事例だと言える。

(2) 兵庫県三田市有馬富士公園⁽⁴⁾の事例

有馬富士公園は兵庫県三田市の山側に位置する県立公園である。開園する2年前に、基本的に設計自体は出来上がっている中、住民参加型のパークマネジメントを実施するにあたってキーパーソンになったのが山崎亮氏である。彼は持続的に運営が続く公園を作るために、行政が園内すべての場所やプログラムを管理・運営するのではなく、市民活動を公園の管理・運営へとリンクさせるパークマネジメントが重要だと考えた。現在、30以上のNPOなどの市民活動団体が運営に参加し、年間を通じて多数のプログラムを展開しており、彼の考えや思想がうまく活動や運営に浸透している。

有馬富士公園は、多くの人が関わり様々な要因で成功した事例ではあるが、特に、山崎亮氏の存在が成功に大きく影響した要素と考えられる。この公園のコンテンツである場は従来から存在しており、彼の登場が成功へと大きく方向展開させたトリガーといえるから

である。

有馬富士公園の事例のようにリーダーとなる人物の存在がまちづくりに大きく影響している事例は多く存在し、滋賀県守山市の株式会社みらいもりやま21の石上僚氏⁽⁵⁾なども同様である。兵庫県神戸市新開地区の事例⁽⁶⁾などの地域住民の地域への思いや危機感から始まるまちづくり取組事例や高齢者と子供たちの交流をはかるコミュニティ活動、岐阜県中津川市⁽⁷⁾では女性のネットワークを利用した活動も行われている。村中⁽⁸⁾によると人の属性や地域への愛着、地域での付き合いが深い人などがまちづくり活動への参加の要因であることが明らかにされている。これら全て「人」の特徴を活かしたまちづくりといえる。

(3) 広島県呉市蔵本通りの事例⁽¹⁾

呉市では、昭和59年に「都市景観形成モデル事業」を採択し、呉市の中心地区約130ヘクタールをモデル地区と定め、基調色であるレンガ色で街並みを統一するなどの呉市らしい良質な都市景観を目指し整備するとともに、屋台による賑わいづくりに力を入れている。行政主導による道路・公園整備により広い歩道や利用しやすい公園を設計することにより、賑わいを生む空間をつくり、「くれ食の祭典」などイベントの実施をおこなっている。屋台が減少しても市が屋台数を維持し、屋台による賑わいを保っている。

蔵元通りが成功している要素は、行政主体としての呉市の持続的な介入が大きく影響していると考えられる。蔵本通りを他地域に向けた観光地にするという目的をもって、積極的に行政が地域に関わっている。どのような目的をもってまちづくりに取り組んでいくのか、持続的に取り組んでいけるのかなど、まちづくりには目的や継続性も重要な点である。

4. まちづくりの3つの性質

まちづくりに関する既存の研究や著書から体系的に成功に影響した要因を分析すると、「場」、「人」、「しかけ」の3つの要点がまとめられ、まちづくりには「場の要素」、「人の要素」、「しかけの要素」の3つがそれぞれ作用していると整理できる。それぞれを、まちづくりプロセスの要素として、次のように定義する。

「場の要素」を基盤要素と活動要素と定義する。長期的に変化しない地形や気候、植生などの自然資源、まちの景観や駅からの距離などの空間資源、歴史資源

を基盤要素とし、地域資源や観光資源などの活用資源とまちや場の賑わい・雰囲気などの活力を活動要素とする。「人の要素」を人の属性、地域への意識、行動力と定義する。人の属性は年齢、性別、職の有無とし、地域への意識は地域の愛着度や地域活動への参加状況とし、行動力はリーダー・発案者の存在や組織の存在、主体の種類とする。「しかけの要素」を発生のしくみ、方向性、継続性と定義する。発生のしくみとは自然発生か、目的を誘発し発生するのか、目的をもって発生させているのかであり、方向性とは他地域に向けたしかけなのか自地域に向けたしかけなのかであり、継続性とは単発的还是継続的かである。

表-1 まちづくりの3つの要素

場の要素	基盤要素	三重県伊勢市おおはら町、広島県竹原市、山口県柳井市 ⁽²⁾ 、秋田県大館市 ⁽⁹⁾
	活動要素	大分県由布市の温泉、関門海峡
人の要素	人の属性	岐阜県中津川市、
	地域への意識	神戸市新開地、島根県おたがいさま
	行動力	兵庫県有馬富士公園、株式会社みらいもりやま21、マネジメントオフィス HARADA ⁽⁵⁾
しかけの要素	発生のしくみ	広島県呉市蔵本通り、兵庫県丹波市青垣町佐治、千葉県佐倉市ユーガリが丘
	方向性	まちづくり事例全体に関わる要素だと考えた
	継続性	まちづくり事例全体に関わる要素だと考えた

まちづくり取組事例からまちづくりの成功要素と考えられるものを表-1のように抽出した。まちづくりの見方を「場の要素」、「人の要素」、「しかけの要素」の3つの要素で考えると、異なる視点からまちづくりを分析することができる。これらからまちづくりのプロセスモデルを構築することが必要である。

参考文献

- (1) 地域いきいき観光まちづくり、国土交通省観光庁、2012
- (2) まちの魅力度評価の手引き、国土交通省中国地方整備局
- (3) 観光まちおこしに成功する秘訣-成果を上げるための処方箋、渡辺千賀恵、2011
- (4) コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる、山崎 亮、2011
- (5) タウンマネージャー「まちの経営」を支える人と仕事、石原武政、2013
- (6) まち再生事例データベース、国土交通省都市・地域整備局、2006
- (7) まちかつ、<http://machi.smrj.go.jp/machi/>
- (8) 住民参加型安全安心マップ作成のワークショップへの参加の行動規定要因、村中 亮夫他、2010
- (9) 人口減少社会における地域づくり・まちづくりのモデルの事例集、内閣官房国家戦略室、2011